

## 2つの兵庫県放射能拡散シミュレーション 県下41市町の多くが甲状腺被ばく50mSv超の結果に 広域避難計画は成り立たない

兵庫県は4月24日に福井県の新潟県で事故が起こったときの放射能拡散シミュレーションを公表した。兵庫県は昨年4月にもシミュレーション結果を公表しており、今回はその改良版としている。昨年とは違って全域分を公表した（以下では昨年分を2013年版、今年分を2014年版と呼ぶ）。さらに同日、市民による情報公開請求で2013年版の全域データが公開された。

これらシミュレーションが示しているのは、若狭地方や京都府北部の被ばく量が高いこと（凡例の最大が100mSv以上という区分けになっており分かりにくい）、兵庫県においても相当広い範囲で高い被ばくが予測されることである。関西広域連合の広域避難計画は、避難先として兵庫県を想定しているが、それが成り立たないことを示している。

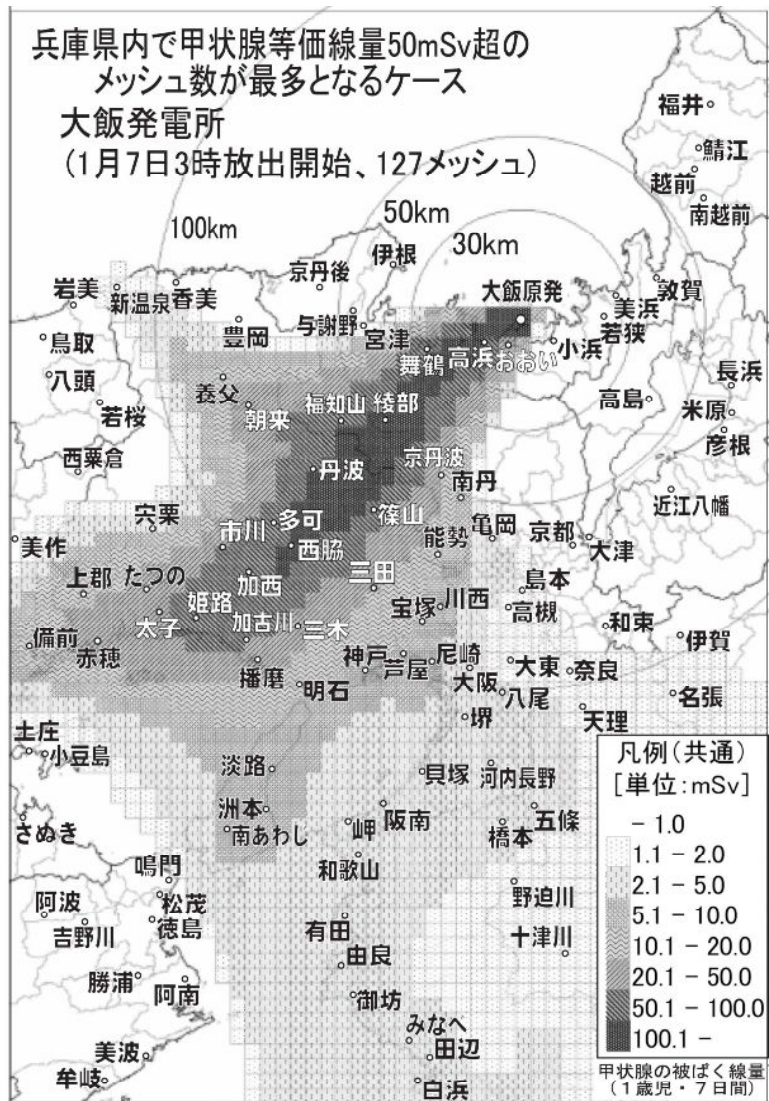
### 2014年版シミュレーション 甲状腺被ばく50mSv超

#### 高浜原発事故で32市町、大飯原発事故で38市町

最大被ばく量は、2013年版では県内の4市(篠山市、丹波市、豊岡市、神戸市)に限られていた。新しい2014年版では県内の4km四方の621メッシュすべてでわかるようになっている。甲状腺被ばく線量(甲状腺等価線量 1歳、7日間)の結果は、兵庫県下41市町のうち31市町で50mSvを超えうるという結果になった。これは市役所や町役場の所在地(4kmメッシュ)での結果である。

市町内で、一部でも50mSvを超えるのは、高浜原発事故の場合で32市町、大飯原発事故の場合で38市町にもなる。甲状腺等価線量50mSvはIAEA(国際原子力機関)のヨウ素剤服用基準である。

関西広域連合の広域避難計画では、福井県と京都府の住民を兵庫県が受け入れることになっているが、これで本当に受け入れることができるのだろうか。そもそも避難してきた人たちが



兵庫県の最新シミュレーション(2014年版)に地名を挿入(美浜の会)

こんな高線量の場所にとどまるのかも疑問だ。シミュレーション結果は、現在の広域避難計画が成り立たないことを示している。

表. 兵庫県シミュレーション結果(2014年)の一部と避難計画より作成

避難元 市町	避難先					
	府県	地域・市町村		甲状腺等価線量(mSv) <sup>※1</sup>		受入れ人数
				高浜原発	大飯原発	
小浜市 (一部)	兵庫県	中播磨	姫路市	35.9	<b>71.2</b>	22,067
高浜町			阪神北	宝塚市	<b>75.3</b>	<b>115.9</b>
		三田市		<b>139.4</b>	<b>88.1</b>	3,296
		猪名川町		<b>115.7</b>	<b>128.3</b>	751
おおい町		阪神北	伊丹市	<b>92.2</b>	<b>112.2</b>	4,577
			川西市	<b>99.3</b>	<b>111.9</b>	4,151

※1. 甲状腺等価線量は1歳児の7日間の積算被ばく量

### 情報公開請求により2013年版の全域が公開

2013年版のシミュレーションでは、全域ではなく兵庫県内部分しか結果が公表されていなかった。情報公開請求により4月24日に全域版が公開された(公開決定は3月上旬に出っていたが、2014年版の公開と同時にしか出せないと不当にも1ヶ月半以上公開が延ばされたが)。これを見れば、若狭地方、京都府北部が高濃度に汚染されることがわかる。また、遠くは四国の手前まで小豆島の辺りまで50mSv超の帯が延びている(図は美浜の会ホームページに掲載)。

### 篠山、神戸には最短約2時間で放射能が到達 到達時間データ、兵庫県以外の被ばく量も明らかにさせよう

今年2月の県議会で丸尾議員の質問に対し兵庫県知事は篠山、神戸に最短約2時間で放射能が到達すると回答した(2013年版シミュレーション)。2時間のうちに例えば篠山や神戸で市民へヨウ素剤の提供ができるのだろうか。丸尾議員は2014年版で到達時間も公表するよう求めたが、県は拒否している。県によると、2014年版でも時間の推計結果は既にあるという。各自治体への申し入れで、放射能の到達時間も公表するよう求めよう。これらが明らかになれば避難計画の破綻はますますはっきりするだろう。

また県知事は、兵庫県以外の被ばく量も算定し、6月中に公表すると語っている(神戸新聞4月29日付)。関西全域の被ばく量の公表が確実に実行されるよう各地から要求していこう。

#### 【2014版シミュレーションの条件】

- 兵庫県全域を一辺4kmのメッシュ(網目の格子)に分け、全621のメッシュごとに計算
- 気象条件は2009~2011年の3年間で、平均からの乖離が最も少ない2009年の気象を適用
- 放出継続時間を6時間、放出開始時刻を2009年1月1日午前0時から1時間ごとに計算
- 福島第一原発事故並みで出力に応じた放射性物質の放出があったと仮定し、7日間の積算被ばく線量を推計
- 1日の滞在時間は屋外8時間、屋内16時間(屋内滞在の低減係数は2013年版と異なる)